

ちば経済フラッシュ

「ちば経済フラッシュ」は3、6、9、12月号に掲載します

千葉県経済の動き — 中小企業動向を中心に —

概況

県内経済は、天候要因等から消費にやや一服感が見られたが、全体としては着実に回復を続けている。

4～6月期の県内小売業の販売動向は、これまでの上向きの動きからやや一服感が見られた。これは、雨天や曇天の日が多かった天候要因に加え、6月中旬の株価大幅下落（6月13日：前日比▲六一四円）などが重なり、一時的に消費者の購買姿勢が慎重化したことによるもの。もっとも、雇用環境の改善による雇用者所得の増加、7月後半からの夏本来の暑さの到来、路線価（千葉県平均は前年比＋一・三％と全国四番目の上昇率）の上昇による資産効果等を背景に、7月以降再び消費は盛り返ってきている。

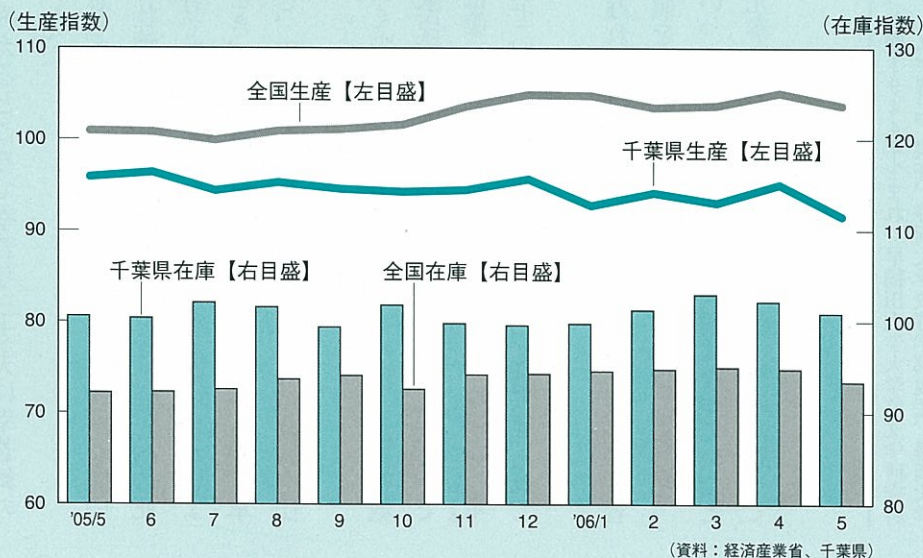
企業の生産は、プラスチック、輸送用機械等では操業度が落ちているが、鉄鋼、一般・建設機械、電気機械、化学、金属製品等では内外の需要増に支えられ、高水準の稼働を続けている先が多い。

この間、7月初に実施した県内企業経営動向調査（千葉経済センタ）によれば、4～6月期に原材料仕入価格が上昇したとする企業の割合は六二・六％（うち一〇％以上の上昇は十八・五％）と広範に及ぶのに対し、販売価格の引き上げを実施した割合はわずかに四・九％にとどまっており、収益面で悪化をみている先が多い。

4～6月期の新設住宅着工戸数は前年同期比＋三二・〇％と三期連続で二ケタの伸びが続いている。特にマンション建設が好調であるが、その立地エリアは、これまでの京葉線沿線（新浦安・海浜幕張・千葉みなと）やつくばエクスプレス（TX）沿線、北総線沿線に加え、八千代、白井などの内陸部まで広がりをみせている。一方、公共工事請負金額は、4～6月期も前年同期比▲三〇・九％と二期連続で二ケタのマイナスとなっている。

4～6月期の有効求人倍率（季調済）は、〇・九二倍と三期連続で改善した。雇用に関しては、2007年問題への対応もあって、製造業、非製造業とも企業規模にかかわらず、雇用不足状態が続いている。（酒井）

■ 鉱工業生産・在庫指数（季節調整済、2000年＝100）



消費関連

県内小売業の販売動向は、降雨や日照不足など悪天候の影響もあって、全体としては昨年末以降続いていた上向きの動きが一服した。

すなわち、05年後半以降、ショッピングセンターや通信販売など幅広い業態で上向きの動きが広がっていたが、06年4～6月期は、県内百貨店は夏物衣料の出遅れなどから三期ぶり、自動車販売も乗用車の需要低迷から二期ぶりに前年割れとなった。コンビニ売上は競合激化から前年割れが続いた。

か、ホームセンターでも天候不順による園芸用品などの売り上げ伸び悩みから前年実績に届かなかった。この間、家具販売、家電販売、携帯電話販売では弱含みの動きが続いた。

一方、レジャー関連では回復の動きに広がりが見られた。大手テーマパークの入園者数は前年実績を上回る順調な動きを続けた。南房総地域のレジャー施設では入場者数がバブル期以来の高水準となった先が見られたほか、宿泊施設でも、宿泊者数、宿泊単価とも前年実績を上回った。

(関)

食料品

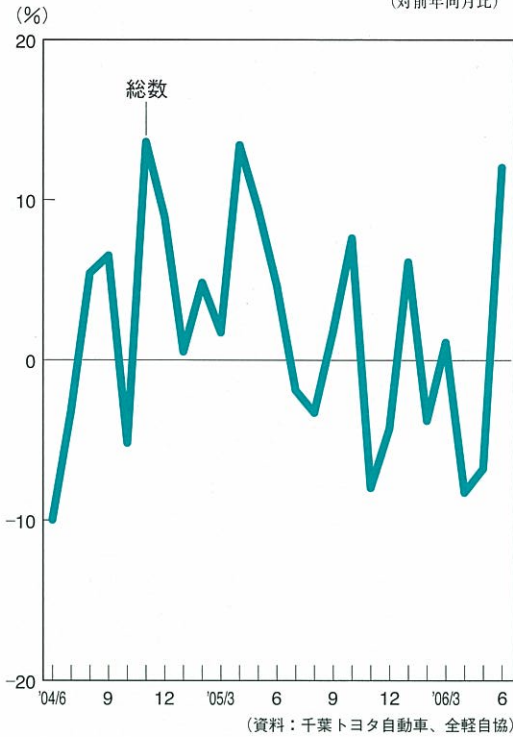
県内食料品メーカーの4～6月期の生産BSIは▲四・九と前回比+〇・三改善したものの、水準は二期連続で「減少」超となった(05年10～12月期:二・五↓06年1～3月期:▲五・二↓4～6月期:▲四・九)。収益BSIも▲六・一で同+二・〇改善したものの、水準は二期連続「悪化」超となった(05年10～12月期:二・四↓06年1～3月期:▲八・一↓4～6月期:▲六・一)。

少子高齢化などで国内市場の大

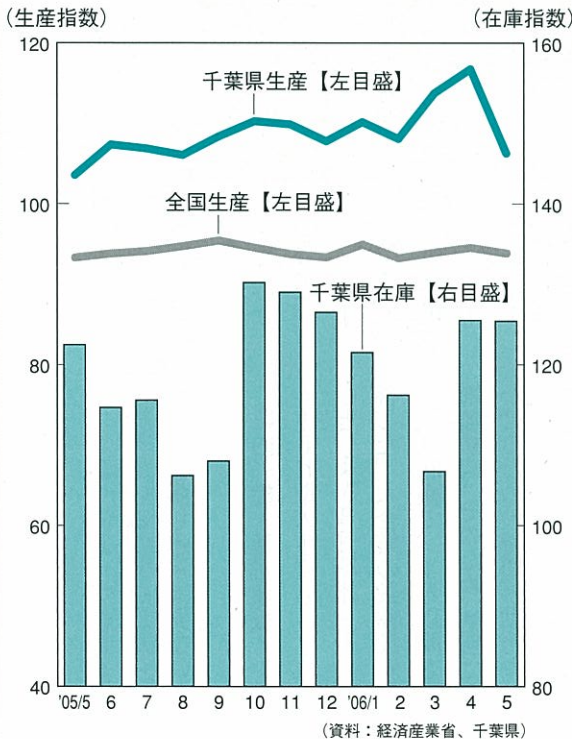
幅な伸びが見込めないうえに、食料品における消費者の安値志向は根強く、価格競争によるシェア争いなどメーカー間の競争は激化している。このため、高騰した原材料価格や燃料費などの価格転嫁は思うように進まず、収益悪化が続く原因となっている。

県内食料品メーカーの中には、子会社を通じた海外市場の開拓や現地日系企業への原材料供給のほか、食料品製造の技術を生かして開発した安全性の高い化粧品や医薬品素材の販売など、新分野に活路を見いだす先も見られる。(資食)

■千葉県乗用車新車登録台数伸び率(軽を含む)
(対前年同月比)



■食料品の生産・在庫指数
(季節調整済、2000年=100)



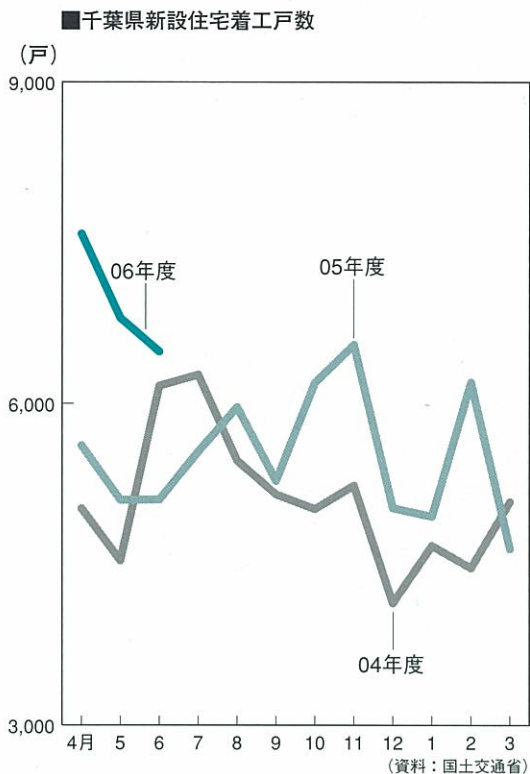
住宅・建設

06年4～6月期の新設住宅着工戸数は、都内の地価高騰で住宅用地の仕込みの動きが都内に比べ割安感のある県内へシフトしていることなどから、前年同期比+三二・〇%と、05年10～12月以降三期連続で二ケタの伸びとなった。市別に見ると、船橋市(同+一八〇%)、流山市(同+三三・〇%)、市川市(同+三二・二%)、千葉市(同+二六・〇%)などを中心に増勢の動きが広がっている。利用関係別に見ると、分譲住宅が

同+四八・二%、貸家が同+二七・一%、持家(注文住宅)が同+五・〇%増加した。

06年4～6月期の県内公共工事請負金額は、前年同期比▲三〇・九%と大幅減少。発注者別に見ると、市区町村は同+二・八%とわずかに増加したが、県は同▲四六・五%とほぼ半減した。

県内建設需要は、景気回復により民間部門が増加傾向にあるものの、公共工事は大幅減が続いている。そのため、民間を中心に受注を増やしている企業がある反面、公共工事依存度の高い企業には、厳しい環境となっている。(菅谷)

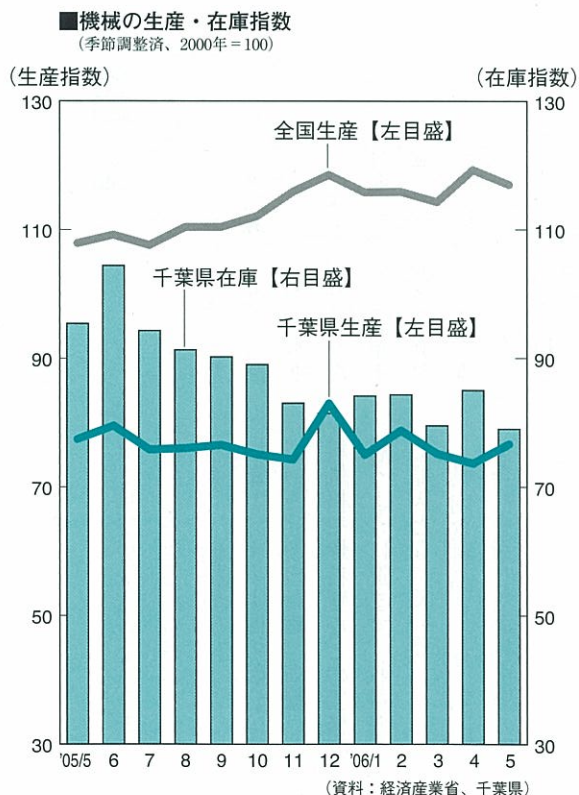


機械

県内電気機械メーカーの4～6月期の生産BSIは、二〇・〇と三期連続で二ケタのプラスとなった(05年10～12月期：二七・八↓06年1～3月期：二七・八↓4～6月期：二〇・〇)。販売価格低下の流れは続くものの、サッカーワールドカップ大会向けの薄型テレビやアジア向けを中心とした携帯電話生産が堅調に推移。7～9月期はクリスマス商戦を前にゲーム機器中心に生産が増加する見込み。例年、生産が鈍化する10～12

月期についても、国内景気が上向きであることと、中国旧正月商戦を控えていることなどから、年内は大きな落ち込みは少ないとの見方が多い。

県内一般・精密機械メーカーの4～6月期の生産BSIは一〇・〇と、1～3月期比+十三・六改善した。大企業の設定投資と生産意欲は旺盛で、4月以降も受注は増加傾向。そのため、納期に間に合わせるための時間外勤務や二交代制等を導入し、何とか対応しているとの声も聞かれる。先行きの生産BSIは十三・四と、さらなる改善を見込んでおり、今年中は好調が続くと見ている先が多い。(酒井)



ITソフト

06年5月末までの情報サービス業(全国)の売り上げは、五か月連続で前年実績を上回った(前年同月比・3月+四・九%、4月+六・四%、5月+五・七%)。

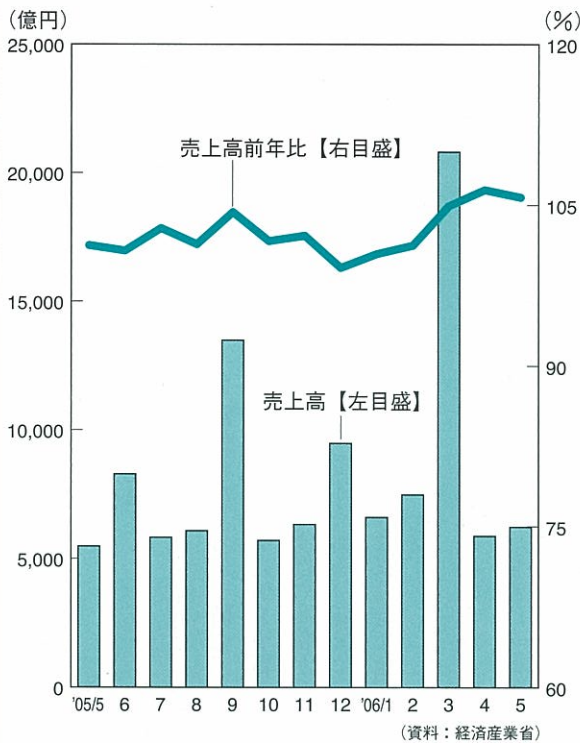
県内のIT関連企業四五社で構成する協同組合の経営動向調査でも、売り上げ・受注ともに増加傾向にある。金融機関の統廃合に伴うシステム投資が引き続き活発なほか、景気回復を受けて、その他の業種でも企業システムの更新、

バージョンアップへの投資が増加している。

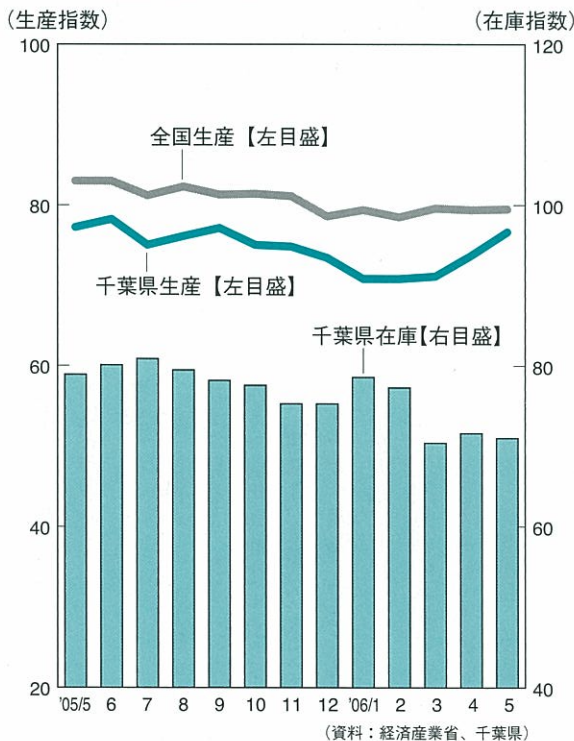
民間企業の中には、団塊世代の大量退職を控え、金融機関の勘定系などで使用されているオーダーメイド型コンピュータを、Windowsなどの標準化されたシステムに切り替える動きが出てきている。今後、日本版SOX法(企業の会計不祥事やコンプライアンス欠如などの防止を目的とする法律で、ITの利用と統制がより重視される)への対応と合わせて、県内IT関連企業の中には、97年の消費税率引き上げ時のような特需を見込む向きもある。

(菅谷)

■ITソフト産業売上高(全国)



■窯業・土石の生産・在庫指数
(季節調整済、2000年=100)



窯業・土石

県内主要協同組合(北部・西部・中央)の4〜6月期の生コン出荷量は、引き続き高水準で推移し、八期連続で前年を上回った(前年同期比・05年10〜12月期+九・〇%↓06年1〜3月期+十七・〇%↓4〜6月期+十三・六%)。

千葉北部協同組合(柏・松戸・野田など)では、柏の葉キャンパス・流山おおたかの森など、TX駅周辺の開発が本格化し、4〜6月期の出荷量は前年同期比+十

三・六%増加した。

千葉西部協同組合(浦安・市川・船橋など)では、マンション建設地が臨海部(浦安)船橋)から、船橋法典・八千代・白井などの内陸部に広がっており、4〜6月期の出荷量は前年同期比+十六・二%増加した。

千葉中央協同組合(千葉・市原・四街道など)では、千葉みなと駅や問屋町地区のマンション建設向けの出荷が始まり、4〜6月期の出荷量は四期ぶりに前年実績を上回った(前年同期比・05年10〜12月期+二〇・四%↓06年1〜3月期+二・四%↓4〜6月期+九・〇%)。

(菅谷)

鉄鋼 石油・化学

鉄鋼

06年4～6月期の県内高炉メーカー二社（新日本製鐵君津製鐵所、JFEスチール東日本製鐵所千葉地区）の粗鋼生産量は三四三・六万ト、前年同期比▲四・四％減少した。建築向け汎用鋼材の減産に加えて、自動車メーカー向けもわずかながら前年を下回った。

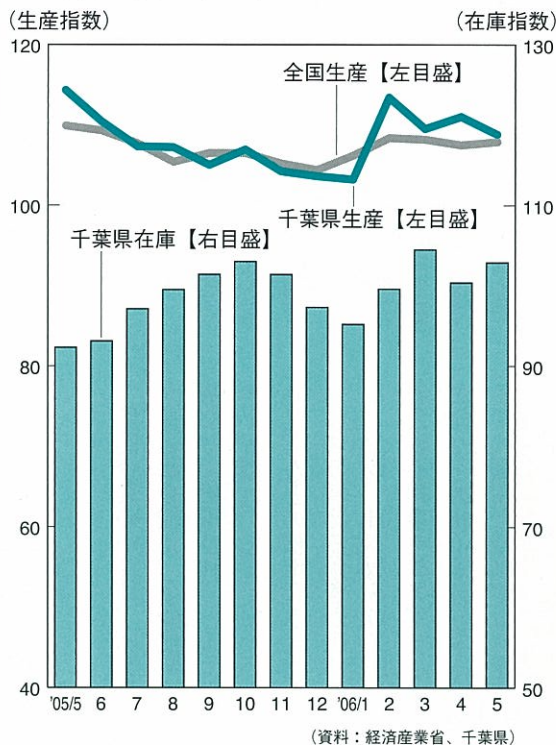
県内の鉄鋼・非鉄金属メーカーの生産BSIは、市中在庫の調整遅れなどから二期連続で悪化した（05年10～12月期：十二・五↓06

年1～3月期：○・○↓4～6月期：▲四・二）
（菅谷）

石油・化学
県内石油・化学業界は、ドバイ原油価格が7月に一時七二ドルまで上昇、史上最高値を更新するなど、石油関連価格の高騰が続いている。原材料価格の高騰は自社の経営努力での吸収可能な範囲を超えており、販売価格に転嫁しなければ大幅減益は避けられないとする先が多いが、価格への転嫁は一部にとどまっている。一方、原油高を嫌いエネルギーの転換や非原油製品の購入を検討する先も見られるなど、石油製品の需要縮小を懸念する声も聞かれる。（酒井）

鉄鋼業の生産・在庫指数

（季節調整済、2000年=100）



農業・漁業

農業

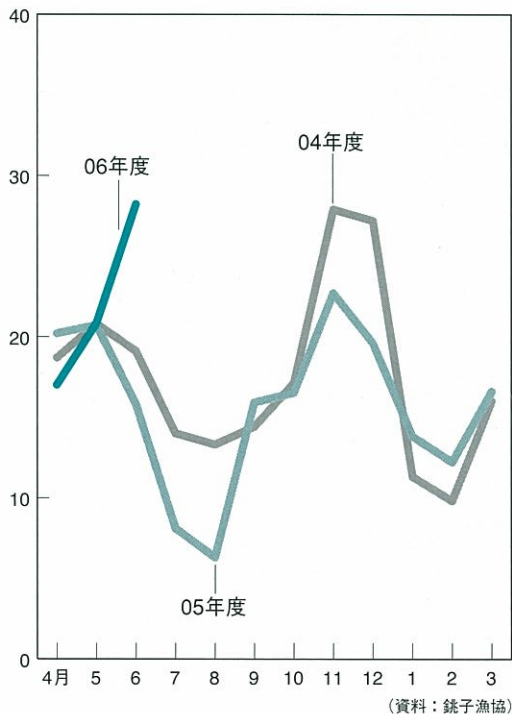
4～6月期の千葉県産主要野菜一〇品目の東京中央卸売市場への出荷は、数量が減少したにもかかわらず、平均単価が大幅に上昇した。これは、長野県など大雨の影響を受けた地域から東京への出荷が例年比大幅に減少したため。千葉県でも日照不足による生育の遅れや質の低下は見られるものの、出荷は同微減にとどまっている。産出額全国第一位を誇る日本ナシも生育の遅れが見られ、農家で

は昨年ほどの高値は見込めないと
の見方が多い。（酒井）

漁業
銚子漁港の4～6月期の水揚げ状況をみると、数量（六万九〇五四ト・前年同期比＋十七・三％）は二期ぶり、金額（六六・〇億円・同＋十六・四％）では二期連続で前年を大幅に上回った。サバやアジなど主要魚種の水揚げが好調に推移するとともに、不漁続きであったイワシの豊漁は、漁協にとって久しぶりの明るい話題となった。勝浦漁港では、数量（二万八二〇六ト・同＋二四・二％）、金額（七一・二億円・同＋七八・五％）ともに大幅に前年を上回った。（菅谷）

銚子漁港の水揚げ額

（億円）



雇用

千葉県の下6月期の有効求人倍率(季調済)は、〇・九二倍と

同＋六・〇％の高い伸び、パートも同＋二・七％増加。一方、有効求職者数は同▲〇・七％と十六期連続で減少。雇用形態別では、一般は同▲〇・七％減少、パートは同＋五・九％の増加。

通信会社や、電機メーカーのコールセンターでは慢性的な人材不足の状態。人材派遣会社では、求職者の登録が追いついていない。

一般は○・七五倍と前期比+○・
○六ポイント改善、パートは一・
四三倍と同▲○・○四ポイント悪
化した^が水準は高い。

有効求人数（季調済、月平均）は、前期比＋四・六％と二期連続で増加。雇用形態別には、一般は

県内企業の中には、07年から始まる団塊世代の大量退職を控え、労働力の確保や、若い世代への技能伝承が課題となっている先も多い。このため、新規採用を増やしたり、定年退職者を雇用延長したりするなどの動きが出てきている。(菅谷)

企業経営
動向調査
(BSI)

続で「減少」超となった。製造業、非製造業ともに悪化した。先行きは〇・〇で実績比＋一・五改善見込み。

4 6月期の企業の業況判断B
SI（全産業）は▲二・九と二期
連続で悪化、水準も「悪化」超が
二期続いた。製造業は▲二・二で
前回（1〜3月期）比+二・三改
善、大企業、中小企業ともに改善
した。非製造業は▲三・六と同▲
三・〇悪化、大企業、中小企業と

06年度設備投資計画額(同)は、05年度実績額比▲二・〇%の減少となった。製造業では同▲二七・四%減少したが、非製造業では同＋十八・一%増加した。期初計画比(同)では横ばい。製造業中小企業と非製造業ではわずかながら上方修正となった。

もに悪化した。先行き（7～9月期）は二・四（実績比十五・三）と、「好転」超の見込み。

売上実績BSI(同)は▲一・五
と二期連続で悪化、水準も二期連

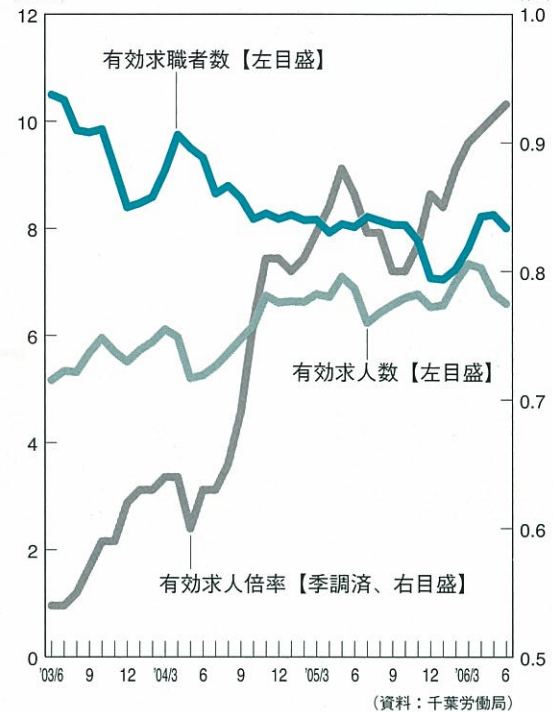
雇用BSI(同)は六・二(前回比▲〇・九)と八期連続で「不足」超となった。製造業は「不足」超

幅が拡大したが、非製造業は「不足」超幅が縮小した。（菅谷）

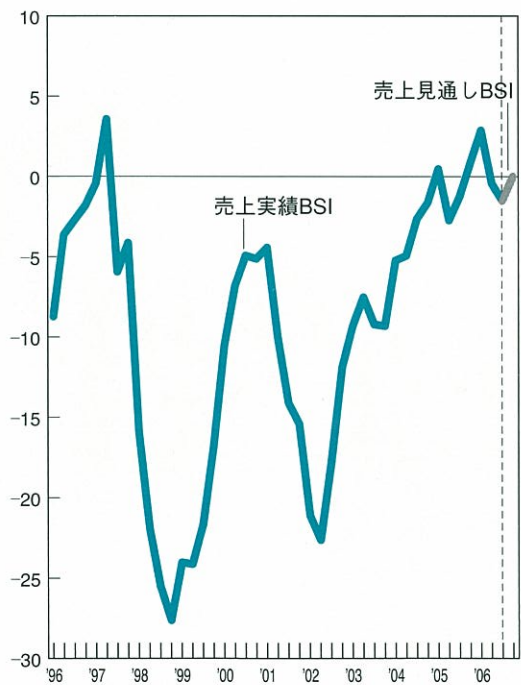
■千葉県内労働需給状況

有効求人・求職者数
(万人)

有効求人倍率
(倍)



■企業経営動向調査 売上実績・見通しBSIの推移



(資料：千葉経済センター〔(財)ひまわりベンチャー育成基金〕)

注) 売上実績BSI=(「増加」-「減少」)÷2